

2022年3月期  
第3四半期

# 決算補足 説明資料

2022年2月7日



証券コード：8715



# 全体目次

1

第3四半期決算概要

2

重点施策の進捗状況

3

APPENDIX

# 第3四半期決算概要

---

1. 全体サマリー（経常収益・経常利益）
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常利益の増減要因（対前年同期比分析）
4. 貸借対照表 サマリー
5. 経常費用・利益のパラメータ



## 経常収益

# 39,616 百万円

前年同期は35,689 百万円 **11.0%**増 計画は39,000百万円 **1.6%**増  
うち、保険引受収益：35,133百万円 前年は32,058百万円 9.6%増

## 経常利益

# 2,488 百万円

前年同期は2,169 百万円 **14.7%**増 計画は2,300百万円 **8.2%**増

コロナ禍での堅調なペット飼育需要は、一部落ち着きが見え始める一方で、  
損害率の低下傾向も見え始めている状況

### ■ 経常収益（対前年同期比）

- 4-12月の新規契約件数は**17.3万件（8.8%増）**を達成、同保有契約件数は**100.4万件（12.1%増）**と**100万件を突破**
- 動物病院・遺伝子検査・ブリーダーマッチングサイト等も堅調に推移し、その他経常収益も**3,923百万円（20.1%増）**と順調に拡大
- 保険引受収益、その他経常収益、資産運用収益の全てにおいて計画達成

### ■ 経常利益（対前年同期比）

- 保険引受収益や資産運用収益の増加等により、**2,488百万円（14.7%増）**、計画比で**8.2%増**
- 保険金については、コロナ禍の影響も小さくなりつつあり、損害率も一定の落ち着きが見え始めているものの、引き続き注視が必要
- 保険金の支払い促進により、異常危険準備金の戻入額が増加 → 12月までに年度戻入額の上限に到達、4Qでの戻入はないことに留意

	21年3月期 3Q	22年3月期 3Q	(百万円) 対前年同期比 増減率
<b>経常収益</b>	<b>35,689</b>	<b>39,616</b>	<b>11.0 %</b>
保険引受収益	32,058	35,133	9.6 %
資産運用収益	365	558	53.0 %
その他経常収益	3,265	3,923	20.1 %
<b>経常費用</b>	<b>33,519</b>	<b>37,127</b>	<b>10.8 %</b>
<b>保険引受費用</b>	<b>22,670</b>	<b>24,940</b>	<b>10.0 %</b>
・正味支払保険金	(17,344)	(19,186)	10.6 %
・損害調査費	(832)	(832)	0.0 %
・諸手数料及び集金費	(3,308)	(3,894)	17.7 %
・支払備金繰入額	(260)	(247)	△ 5.1 %
・責任準備金繰入額	(924)	(779)	△ 15.7 %
(うち未経過保険料)	(1,102)	(1,056)	△ 4.2 %
(うち異常危険準備金)	(△ 178)	(△ 277)	- %
<b>資産運用費用</b>	<b>41</b>	<b>61</b>	<b>47.4 %</b>
<b>営業費及び一般管理費</b>	<b>9,787</b>	<b>10,915</b>	<b>11.5 %</b>
<b>その他経常費用</b>	<b>1,019</b>	<b>1,209</b>	<b>18.6 %</b>
<b>経常利益</b>	<b>2,169</b>	<b>2,488</b>	<b>14.7 %</b>
<b>純利益</b>	<b>1,300</b>	<b>1,909</b>	<b>46.9 %</b>



### ■ 主な勘定科目の増減理由

#### ① 保険引受収益

➢ 対前年同期比で、保有契約件数が**108,666件増加（12.1%増）**、新規契約件数が**13,989件増加（8.8%増）**

#### ② 資産運用収益

➢ 株式投信・REITに加えて債券等の運用を拡大し堅調な資産運用収益を確保

#### ③ その他経常収益

➢ 動物病院・遺伝子検査・ブリーダーマッチングサイト等のその他経常収益が拡大

#### ④ 正味支払保険金

➢ 保有契約の増加及び通院頻度/保険金単価の増加により、支払保険金が増加

#### ⑤ 諸手数料及び集金費

➢ 新規契約件数の増加及び競争激化により増加

#### ⑥ 責任準備金繰入額

➢ 異常危険準備金戻入額の増加により減少

### (参考) アニコム損保 保険重要指標

(百万円)

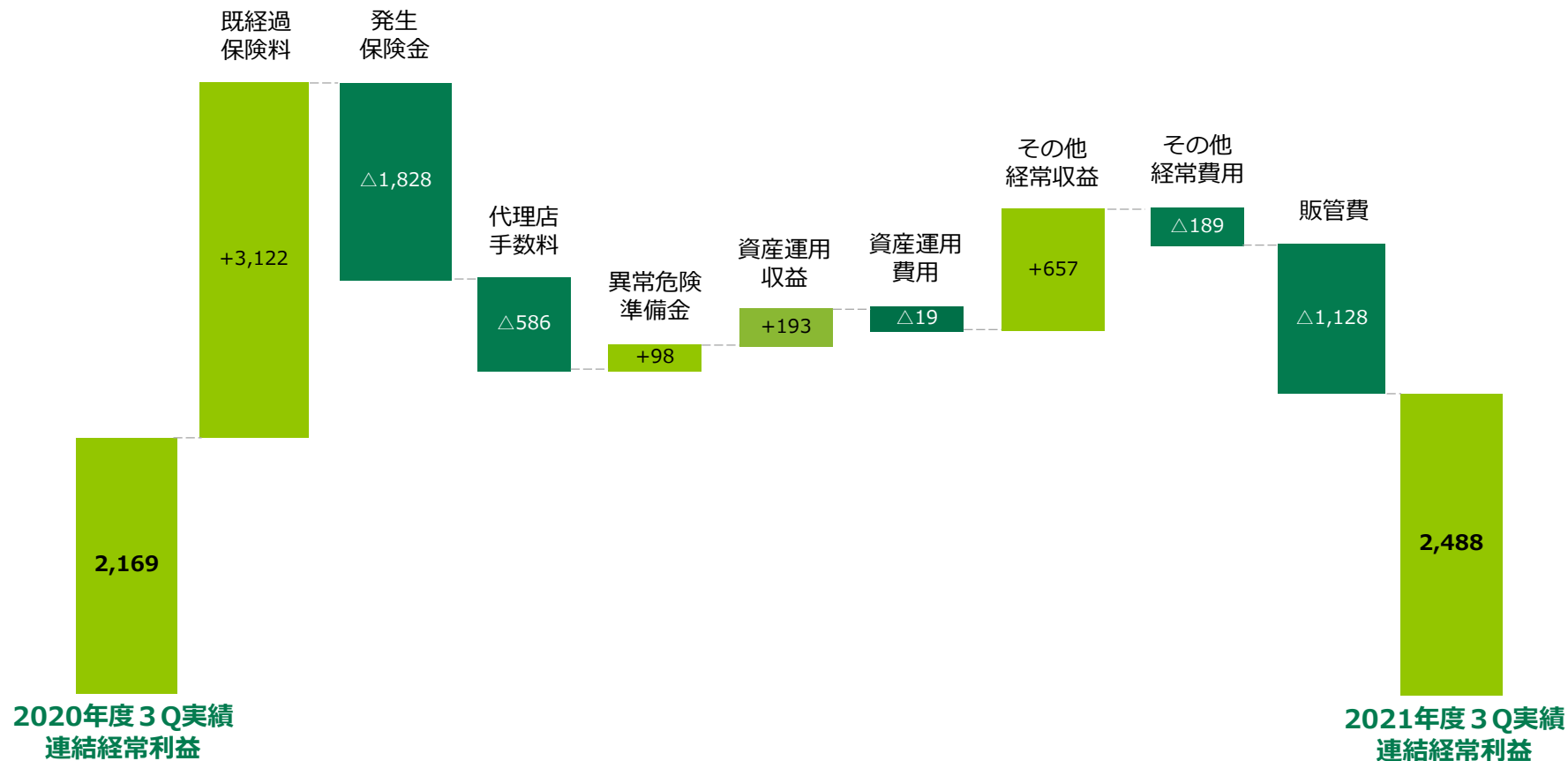
	21年 3月期 3Q	22年 3月期 3Q	対前年同期比 増減率
既経過保険料	31,089	34,207	10.0%
発生保険金（損害調査費含む）	18,437	20,266	9.9%
E/I損害率①	59.3%	59.2%	-0.1%
既経過保険料ベース事業費率②	37.5%	37.5%	0.0%
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	96.8%	96.7%	-0.1%

## 保険引受収益の増加に加え、資産運用収益、その他経常収益の増加も寄与し増益

※1 既経過保険料 = 保険引受収益 - 普通責任準備金繰入額 (未経過保険料)

※2 発生保険金 = 正味支払保険金 + 支払備金繰入額

※3 異常危険準備金 = 異常危険準備金繰入額 + 異常危険準備金戻入額



## 4. 貸借対照表 サマリー

決算概要

重点施策

APPEN  
DIX

(百万円)

	21年3月期末	22年3月期 3Q	対前期末比 増減率
<b>資産合計</b>	<b>55,459</b>	<b>57,853</b>	<b>4.3 %</b>
現金及び預貯金	31,683	29,284	△ 7.6 %
有価証券	11,667	16,030	37.4 %
固定資産	5,987	6,188	3.4 %
その他資産	6,121	6,350	3.7 %
<b>負債合計</b>	<b>29,741</b>	<b>30,310</b>	<b>1.9 %</b>
保険契約準備金	19,626	20,653	5.2 %
うち支払備金	2,539	2,786	9.7 %
うち責任準備金	17,087	17,866	4.6 %
社債	5,000	5,000	— %
その他負債	5,115	4,657	△ 9.0 %
<b>純資産合計</b>	<b>25,717</b>	<b>27,543</b>	<b>7.1 %</b>
株主資本	25,648	27,456	7.0 %
評価・換算差額等	69	87	25.5 %
<b>負債・純資産合計</b>	<b>55,459</b>	<b>57,853</b>	<b>4.3 %</b>

### ■ 主な勘定科目の増減理由

- ① **有価証券**
  - 株式投信やREIT等に加えて債券等の運用を拡大
- ② **社債**
  - 2020年9月の第1回無担保社債の発行により調達
- ③ **評価・換算差額等**
  - その他有価証券評価差額金の増加



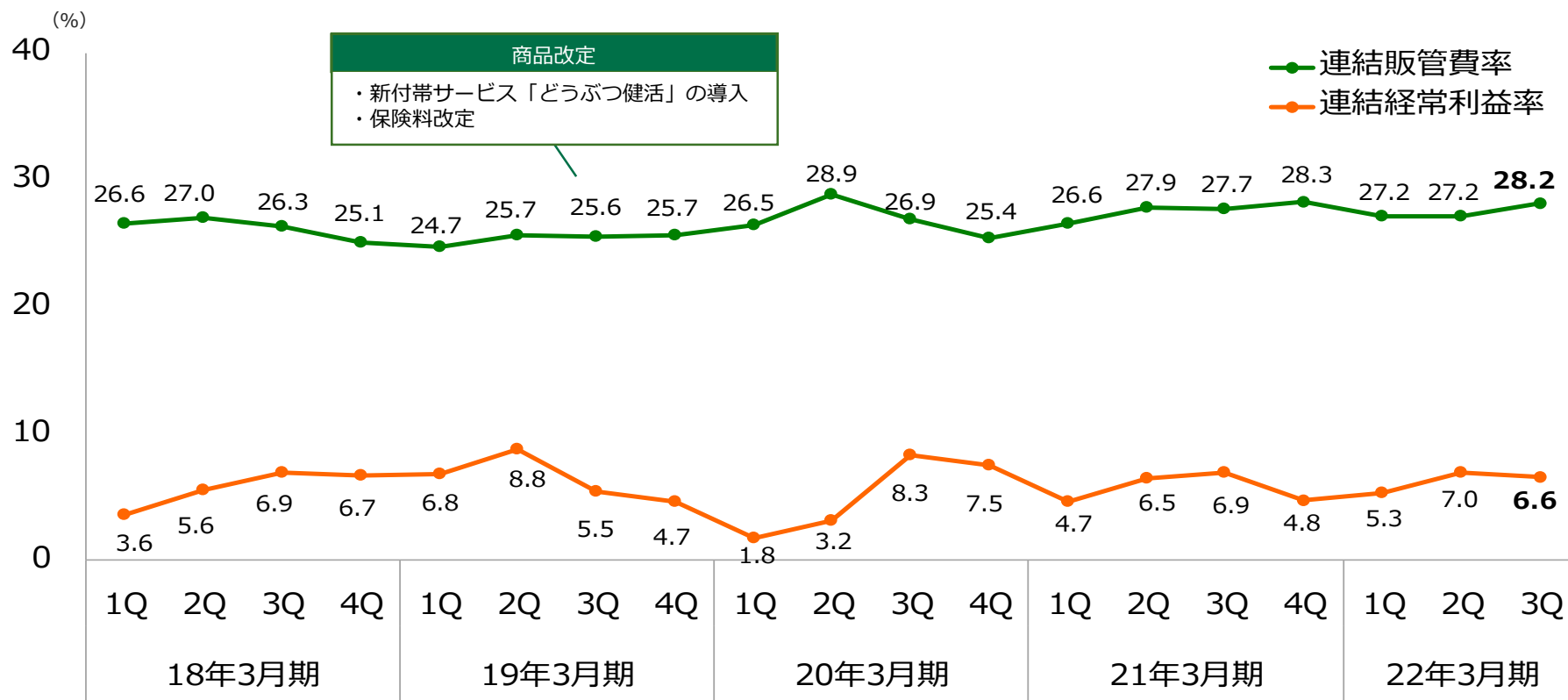
## 5. 経常費用・利益のパラメータ※販管費率、経常利益率（連結）

決算概要

重点施策

APPEN  
DIX

※ アニコム損保単体の経営パラメータ（損害率・事業費率・契約件数）はAPPENDIX参照



### 販管費率・経常利益率（連結）について

コロナ禍での通院頻度や保険金単価の増加による発生保険金の増加や、競争激化による代理店手数料等の増加があったものの、これらのコスト増を保険の新規契約の獲得や、その他経常収益の増加により吸収

# 重点施策の進捗状況

---

1. 重点施策の進捗状況（保険事業・資産運用）
2. 重点施策の進捗状況（その他事業）
3. トピックス



## 保険事業

### 新規・保有契約の状況

- 新規契約件数は4-12月で17.3万件となり、12月末の保有契約件数は**100万件**を突破

### 販売チャネルの拡大・強化

- シムネット社との連携により、ブリーダーチャネルにおける新規契約も順調に拡大中
- 明治安田生命等の一般チャネルの多様化の取組みによる成果が、4-12月の新規契約獲得件数に寄与



これらの販売チャネルの拡大・強化を通じて、保険事業における効率性向上・費用改善に着手  
⇒ 代理店手数料等について、機動的な配分としていく方針に転換

### 商品・サービスの拡大

- 「どうぶつ健活」の申込数の堅調な増加も寄与し、10-12月も安定して高い継続率を維持（87.8%）

### 保険金削減に向けた診療フローチャートの導入

- 診療フローチャートをWeb媒体（みんなのどうぶつ病気大百科）で公開  
疾患フローチャート：75疾患  
獣医師向けフローチャート：90疾患  
犬症状別鑑別フローチャート：11症状  
猫症状別鑑別フローチャート：3症状を公開（12月）
- どうぶつ病院検索サイトの改修  
再生医療対応病院の検索機能を盛り込みリリース（12月）

- みんなのどうぶつ病気大百科PV数 ⇒ 4-12月累計660万PV超
- どうぶつ病院検索サイトPV数 ⇒ 4-12月累計129万PV超

## 資産運用

- 柔軟かつ機動的な資産運用により、12月末時点の年度計画進捗率は年度計画を上回る進捗状況
- ペット共生住宅（アニコフローラ東中野）は8月より満室稼働中で、賃貸収入にも貢献  
今後、ブリーディングサポート等のグループシナジー創出に向けた事業用不動産を展開予定（ブリーディング場の提供（賃貸）、シェルター等）



## その他

- ペットの写真から病気を予測するシステム他、12月末までに23件の特許を出願
- データベース（どうぶつ住民基本台帳）構築に向けた仕組みを開発中  
お客様向け画面の要件定義が完了し、開発作業が進行中
- AIを活用した写真からの個体識別及び疾病等の予測  
飼い主にとって直感的に、わかりやすく、収集が容易な「写真」を活用し、顧客感動体験の提供と同時に、顧客満足度及び予防情報の提供へ繋げるべく、個体識別、品種判定の実証実験を実施、機能強化、個体識別を強化中



産まれる前から

川上



### 遺伝子検査事業の拡充

- 4-12月の遺伝子検査検体数 **8万件超**
- ロボットを導入し遺伝子検査体制を強化
- 性格（行動）、品種、毛色、体質、親子判定などを一度に測定可能に。まもなく実装準備開始

### シムネットのグループインによるシナジー効果創出

#### 【シムネット社2021年度3Q累計業績】

■ 売上高	:	<b>1,435</b> 百万円
■ 経常利益	:	<b>155</b> 百万円
■ 経常利益率	:	<b>10.8%</b>

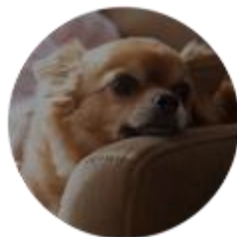
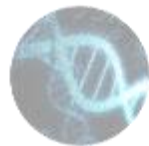
### ブリーディングサポートの事業化

- 動物愛護法の改正対応に向けた各種サポート（医療、販売、引退動物等）を推進中

#### ブリーディングサポートメニュー進捗状況

- 遺伝子検査 ⇒ 遺伝子検査（カスタムアレイ）とマッチングサービスの開発
- 繁殖サポート ⇒ 幹細胞の投与、凍結精子保存技術の向上に向けた研究等
- 医療サポート ⇒ 往診サービスをトライアル開始
- 販売サポート ⇒ 引渡しセンターを開設（このとり戦略）  
（ペットショップ・動物病院等との連携も模索し、地域社会の経済発展機能も果たしていくことで、社会課題の解決にも寄与）
- 事業支援 ⇒ 繁殖管理システムの開発、トライアル開始、ブリーディング場の提供（賃貸）
- 引退犬猫の譲渡支援  
⇒ シェルター建設・運営、譲渡スキームの確立

日々の暮らし ～ 治らないを治す



川中

川下

### 健康診断+フード・商材等の事業化

- 4-12月の「どうぶつ健活」申込数 **13.8万件**
- 「きみのごはん」シリーズ  
検査により発見されたリスクに対し、エビデンスのある有効成分を配合したフードを個々（One to One）に提供
- DNAフード（9/2～）**  
**腸内フローラフード（10/5～）販売開始**

- **腸内フローラフードは、サンプル配布を制限しつつも好感触**



### 動物医療関連(予防～一般・再生医療)

- **直営動物病院は56病院（手術対応可能13病院）となり、順調に拡大**
- **再生医療普及のための動物再生医療技術研究組合は、12月末時点で加入動物病院が388病院に**
- **7月より再生医療協力金制度を開始**



### 社会課題の解決（CSR活動）

- **神戸市と動物愛護推進等の事業に関する事業提携協定書を締結**



▲左から、神戸市長 久元 喜造、アニコム代表取締役 小森 伸昭

#### 具体的な取り組み例

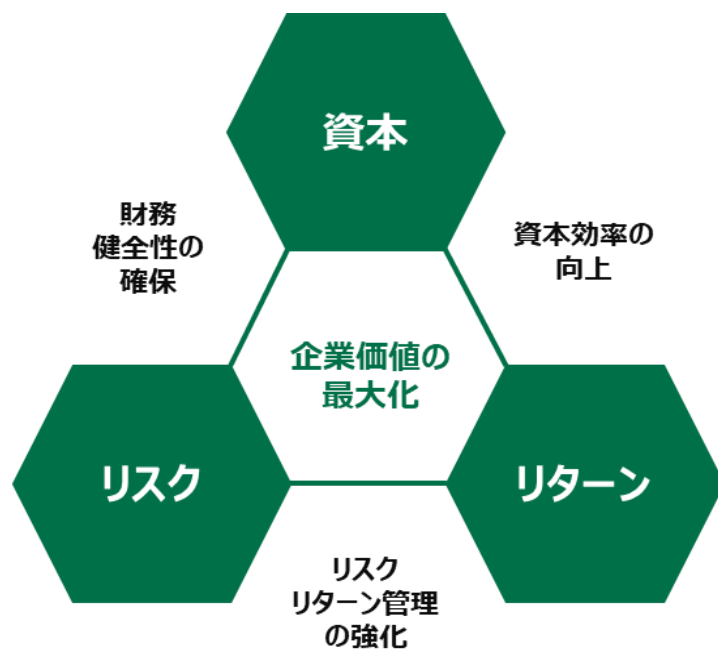
- 神戸市が譲渡しようとする犬猫の、アニコムGが運営する里親募集サイト「hugU（ハグー）」への掲載
- 大規模災害時のどうぶつ診療車及び獣医師派遣
- アニコムGが持つ動物医療や研究のノウハウを活用した犬猫の健康管理や譲渡の促進 等



## 期末配当予想の修正（増配）の公表と今後の段階的な株主還元の充実（21.12.22）

### ERM（Enterprise Risk Management）の考え方

資本・リスク・リターンバランスを管理し、財務健全性と資本効率を両立。中長期的な視野から、継続的・安定的な株主還元を実施

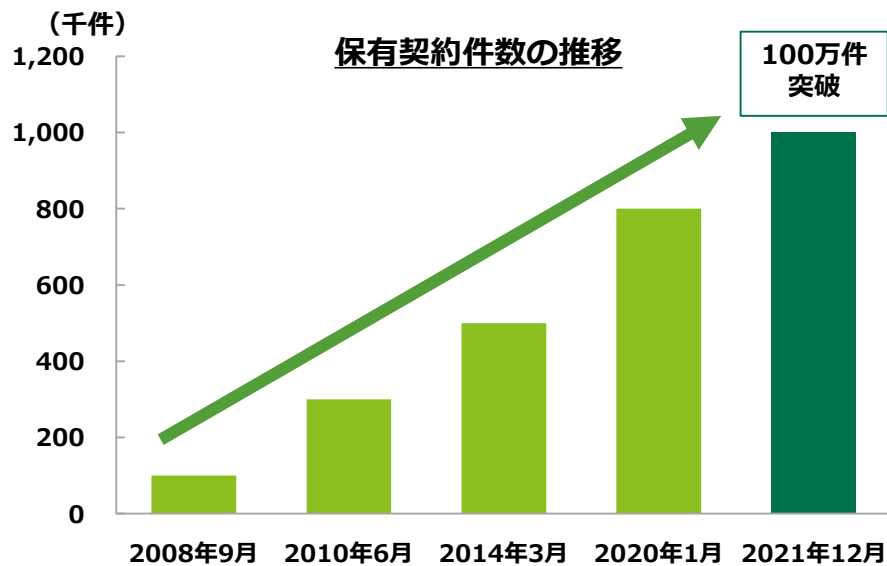


### 【増配公表の背景】

- 2016年3月期に配当を開始して以来、1.25円（2020年10月の株式分割前5.00円）の年間配当を継続
- +
- 持続的成長企業でありながらも段階的な株主還元の充実も見据えていくフェーズに入ったと判断
- +
- 中期的な保険の健全性に係る規制（リスク係数等）見直しの議論が進んでおり、これにより活用可能な資金が創出される可能性  
今後の見直しを見据えて、段階的に最適な資本構成を検討していく
- 先ずは当期末配当を従前の2倍（2.50円）とし、翌期以降は、次期中期経営計画の中で段階的な株主還元の引き上げも検討

### 3. トピックス（保有契約件数・累計成約数の記録達成）

ペット保険の保有契約件数が  
100万件を突破（21年12月末時点）



「みんなのブリーダー」「みんなの子猫ブリーダー」の  
累計成約数が20万件を突破！（21.12.14）



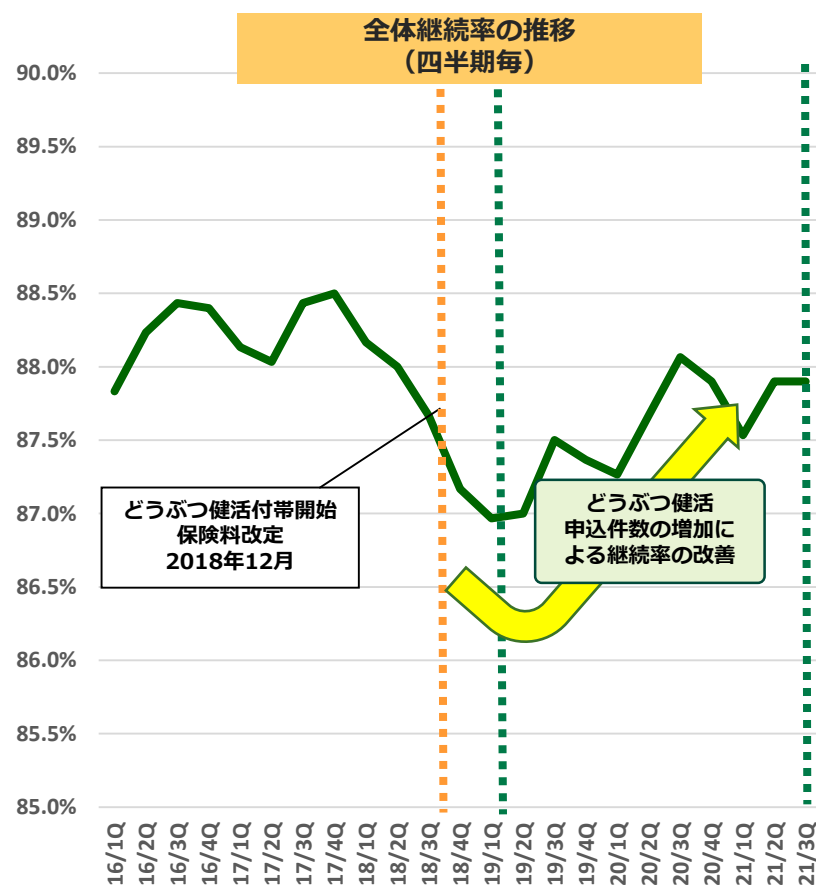
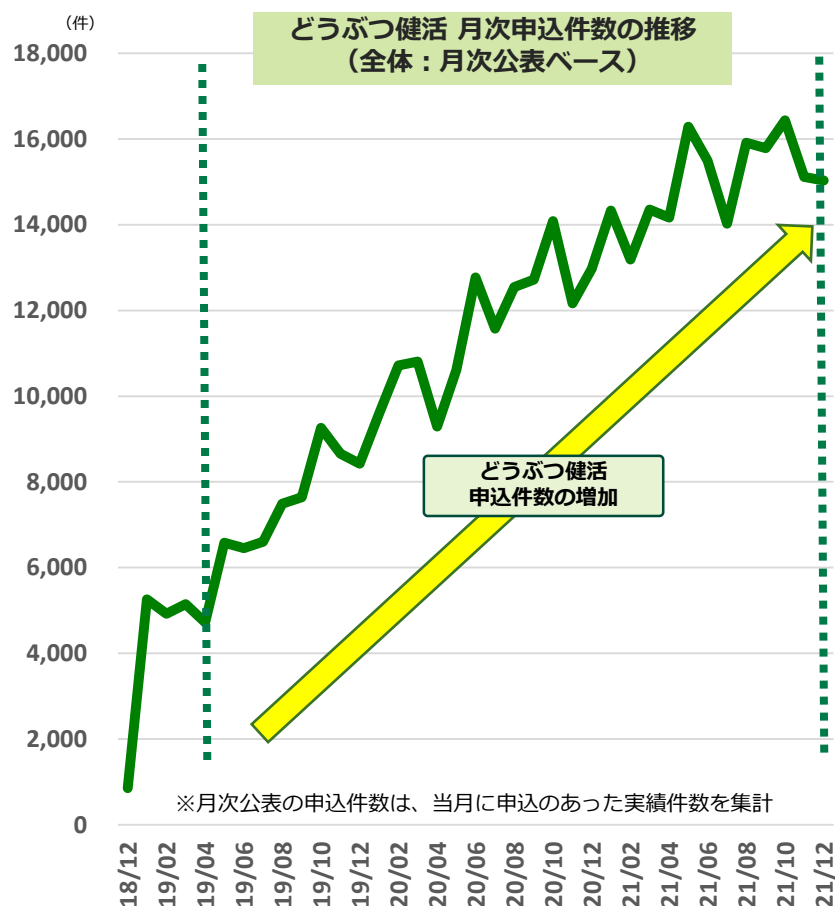
「みんなのブリーダー」は、2010年のサービスを開始以来、  
成約数・登録ブリーダー数共に、11年連続の成長を継続



### 3. トピックス（予防型保険の効果：継続率の改善）

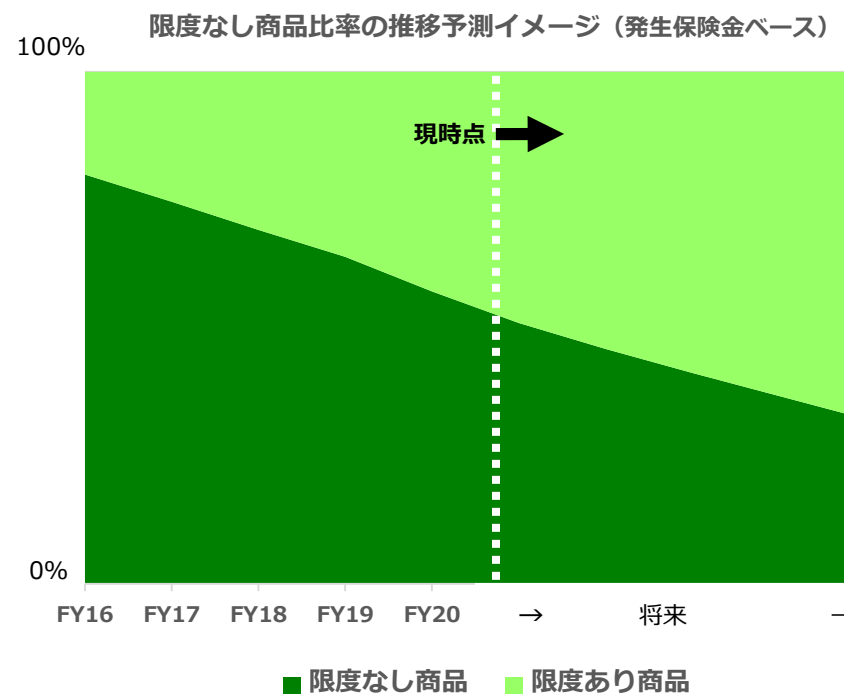
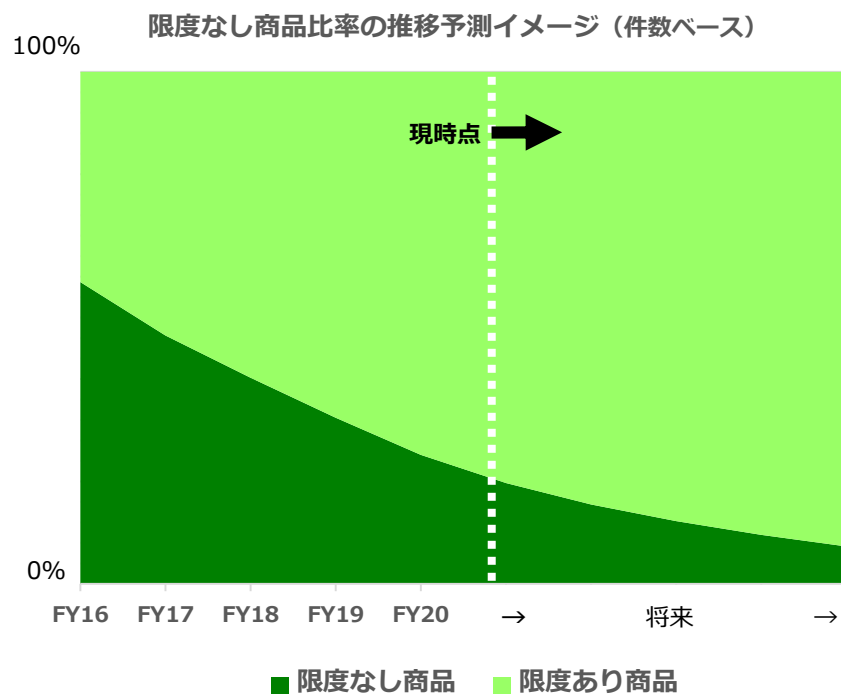
- どうぶつ健活（健診サービス）の申込数は、2021年度は月平均1.5万件を超える状況が継続  
⇒ 掛け捨てでない保険としての独自性が、保険契約者から高い評価
- どうぶつ健活を利用した層の継続率改善により、全体の継続率は前年度から約1%の改善  
⇒ 高い継続率も背景に、代理店開拓においても有効な差別化要因に

「自らで健診サービスを実施し、本気でペットの健康を考えているのはアニコムだけなので当社ではアニコム商品のみを取り扱う」（代理店での一例）



### 3. トピックス（保有契約ポートフォリオの改善）

- 当社は過去に「限度なし商品」を販売していた。極めて高い損害率であったことから2014年度下期より売り止めとし、以降は「限度あり商品」のみの新規募集に変更
- 徐々に限度なし商品比率は減少（20年度末：件数比率25%、発生保険金比率57%）しており、今後もさらに件数・発生保険金ベース共に低下が見込まれる※（21年度末見込み：件数比率20%、発生保険金比率51%）



※予測数値は現時点をベースにした試算値。件数及び発生保険金全体は今後の新規契約獲得件数・継続率・発生保険金の動向等により変化する可能性があります。

#### 1. ペット業界を取り巻く環境変化

- (1) マクロ要因 ①動愛法強化・生体販売禁止といった世界的潮流 ②社会不安の拡がりによるペット需要の底堅さ  
(2) ミクロ要因 ①ライフスタイルの変化（デジタル化の流れ） ②AIの活用・普及

#### 2. アニコムとしては、この環境変化を捉え、

世界の動愛法を先取りするビジネスモデルの確立と、飼育世帯率上昇を促す更なる川上戦略の実行を経営戦略の中心に据え、量のみを追う局面から量と質のバランスを重視するフェーズに転換し、

##### (1) 販売チャネルの更なる拡充

「ネット活用が遅れがちであったペット業界」に対してリアルとネットの融合を強力に推進

##### (2) 川上分野でのリーダーサポートの更なる強化

「川上に位置しテクノロジーの活用余地が大きいブリーディング現場」において、アニコムGの遺伝子解析、共生細菌叢解析、再生医療、膨大な統計解析、AI解析等を活用した改善提案・サービス提供等を行うことで、動物愛護後進国と呼ばれて来た状態から、世界で最も動物愛護が進んだ国とすべく、世界のペット業界の牽引役を目指す。

#### 3. アニコムのサステナビリティ

コロナ禍において、世界中で孤独と不安の解消を求め、ペットの需要が高まる中、アニコムはペット業界の一員として、一人一人の社員の、各々の地域におけるESGやSDGsへの取組みを通じて、**経済的価値を創造しながら社会課題を解決することで、社会的価値を創造するCSV(Creating Shared Value)企業**を目指し、ペット業界を牽引していく。

# APPENDIX

---

## 1. 主要経営パラメータ

## 2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ

(ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移)

## 3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ

(損害率 (E/I) 、既経過保険料ベース事業費率)

## 4. 保険事業以外の事業の収益機会と ペット保険のシナジー相関





# 1. 主要経営パラメータ

決算概要

重点施策

APPEN  
DIX

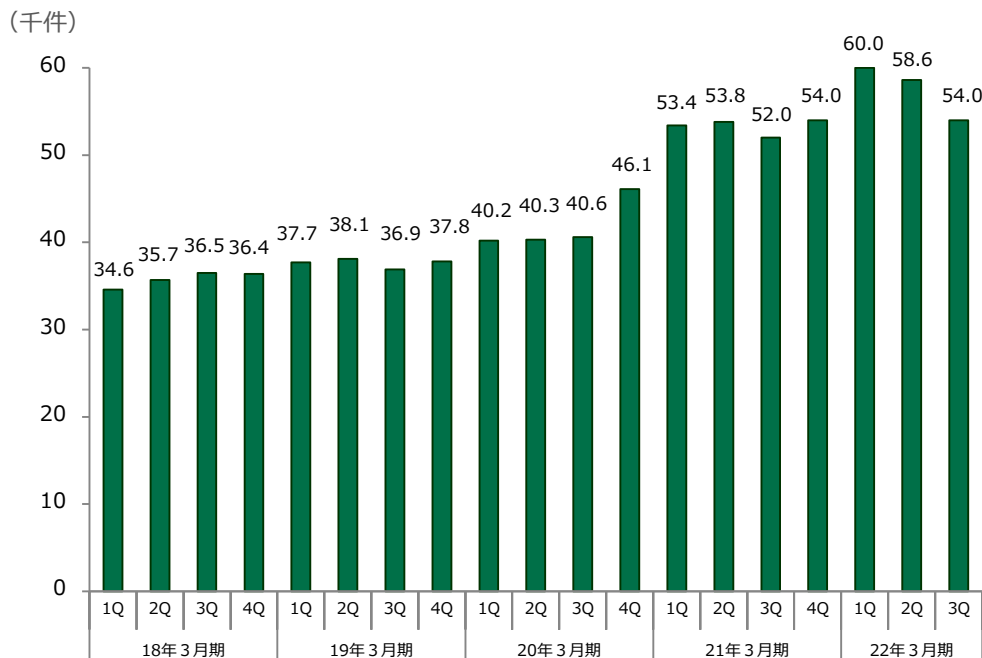
	21年3月期 3Q	21年3月期末	22年3月期 3Q	対前年同期比		対前期末比		22年3月期末 (5月12日予想)
				件数	増減率	件数	増減率	
① 保有契約数	896,247 件	921,873 件	1,004,913 件	108,666 件	12.1 %	83,040 件	9.0 %	1,010,000 件
② 新規契約数	159,368 件	213,368 件	173,357 件	13,989 件	8.8 %	-	-	223,000 件
③ 継続率	87.7 %	87.7 %	87.8 %	-	-	-	-	87.1 %
④ 保険金支払件数	2,829 千件	3,752 千件	3,048 千件	218 千件	7.7 %	-	-	4,000 千件
⑤ 対応動物病院数	6,505 病院	6,541 病院	6,651 病院	146 病院	2.2 %	110 病院	1.7 %	6,650 病院

	21年3月期 3Q	22年3月期 3Q	対前年同期比 増減率	22年3月期末 (5月12日予想)
⑥ E/I損害率	59.3 %	59.2 %	△0.1 %	58.0 %
⑦ 既経過保険料ベース事業費率	37.5 %	37.5 %	0.0 %	38.0 %
⑧ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	96.8 %	96.7 %	△0.1 %	96.0 %

	21年3月期末	22年3月期 3Q	対前期末比 増減率	22年3月期末 (5月12日予想)
⑨ 単体ソルベンシー・マージン比率	355.5 %	345.8 %	△9.7 %	350 % 前後

	21年3月期 3Q	22年3月期 3Q	対前年同期比 増減率
⑩ どうぶつ健活(腸内フローラ測定)申込数	108,721 件	138,253 件	27.2 %
⑪ 遺伝子検査検体数	77,714 件	80,626 件	3.7 %

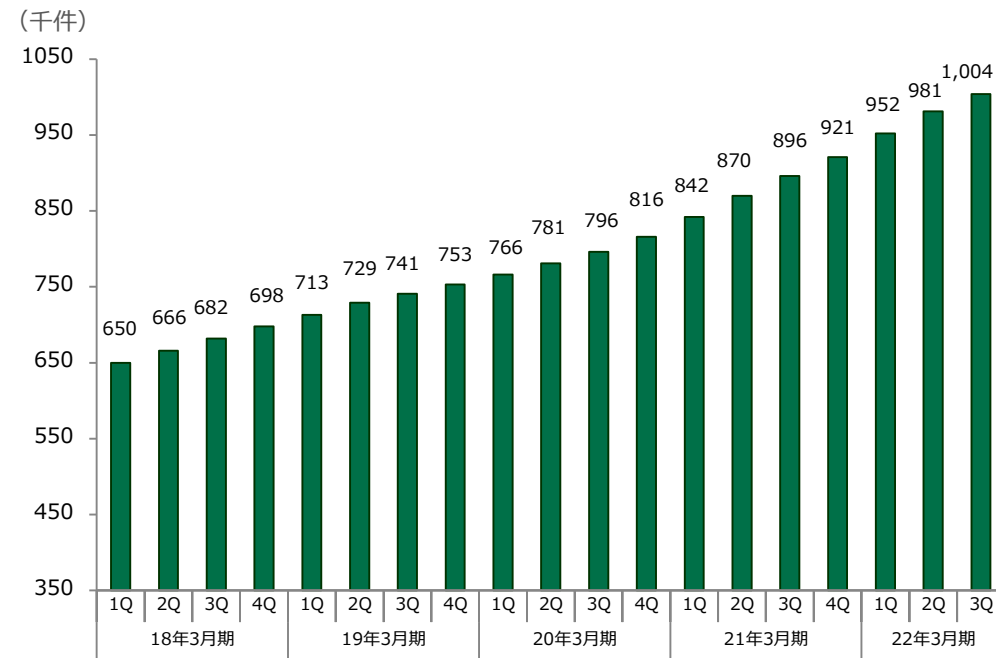
### 新規契約獲得件数の四半期推移



### 新規契約獲得は堅調

NB・一般チャネル合わせて17.3万件を超え、年間計画22.3万件に対して77.7%の順調な進捗率で推移

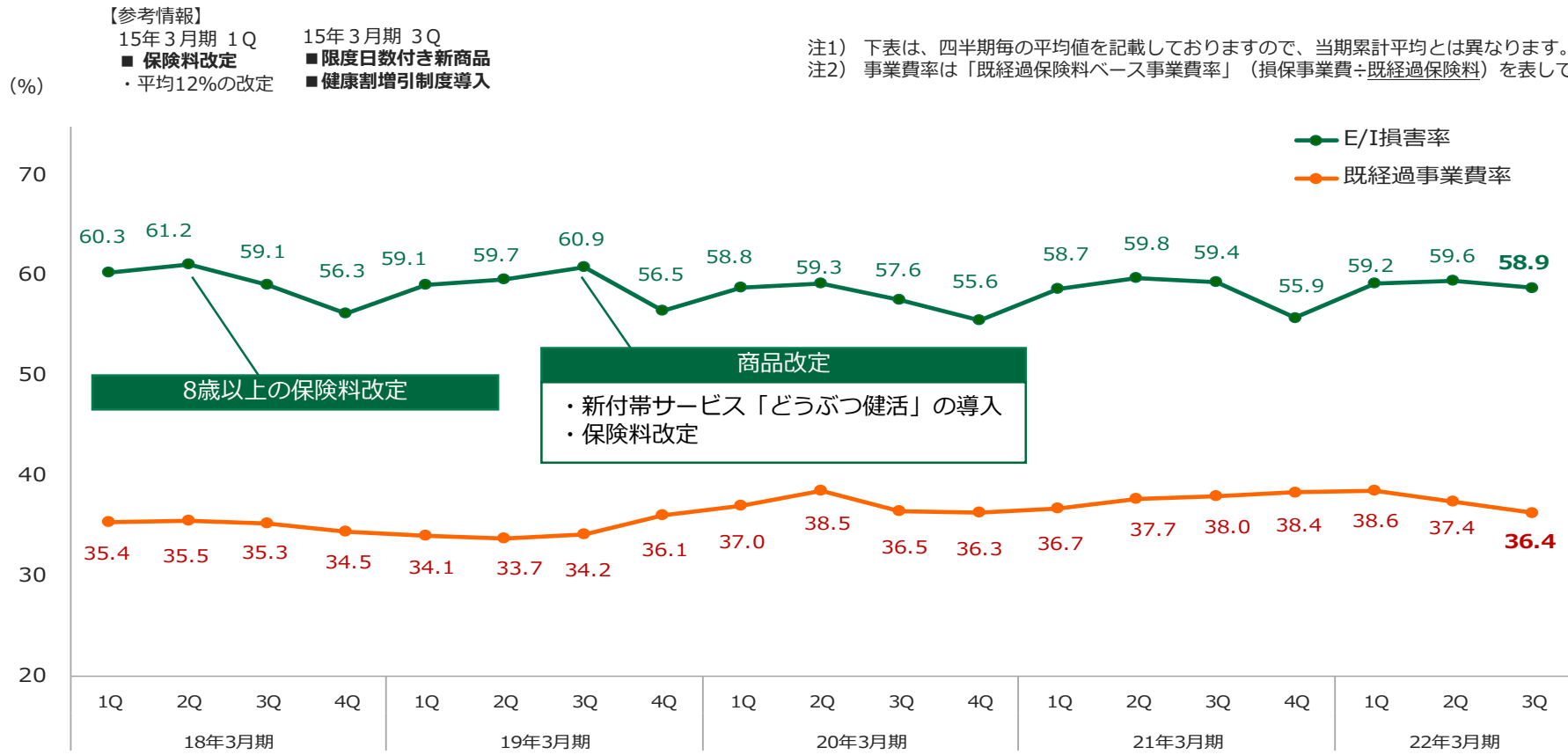
### 保有契約件数の四半期推移



### 保有契約件数

12月末で100.4万件となり、100万件の大台を突破

### 3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ



#### E/I損害率について

当期は新規契約件数の増加により商品ポートフォリオの改善が進む一方、コロナ禍の巣ごもりによりペットの異変に気付く等で通院頻度及び保険金単価が増加した結果、発生保険金が増加し、高止まり傾向

#### 事業費率について

事業拡大に向けた積極投資の継続、独自サービスである「どうぶつ健活」のコスト増、新規契約件数の増加及びNBチャネルの競争激化に伴う代理店手数料の増加等の影響で上昇傾向

どうぶつの  
ライフステージ

保険事業以外の事業の収益機会

へ 保険事業  
の寄与

資産運用

展開

## 川上



### 遺伝子

- ・ 遺伝子検査事業

### 交配・出産

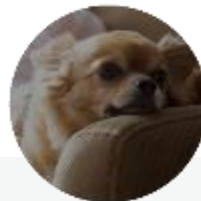
- ・ マッチングサイト
- ・ ブリーディング支援
- ・ 精子バンク

### ペットショップ

- ・ しつけサービス提供
- ・ 遺伝子検査証明書の発行

- ・ 遺伝子ベースの保険料設計や引受診断
- ・ 新生児チャネルを拡大
- ・ 遺伝病減少にともなう損害率低下

## 川中



### 日々の暮らし

- ・ フード開発と販売
- ・ 他企業との連携

### 健康診断

- ・ 腸内フローラ測定事業
- ・ 保険新サービス付帯

### 一次診療(一般診療)

- ・ 電子カルテ拡販
- ・ 一次動物病院運営(海外含)
- ・ 予約送客事業

- ・ 保険の付加価値を向上
- ・ 生活習慣病予防による損害率低下
- ・ 企業集団の獲得

## 川下



### 二次診療(先進医療)

- ・ 再生医療提供
- ・ 二次動物病院運営

### お別れ

- ・ ペット霊園紹介
- ・ 終生飼育施設

- ・ 重症化予防による損害率低下
- ・ 難病治療の確立に伴う損害率低下
- ・ 高齢者等の飼育に対して裾野を拡大

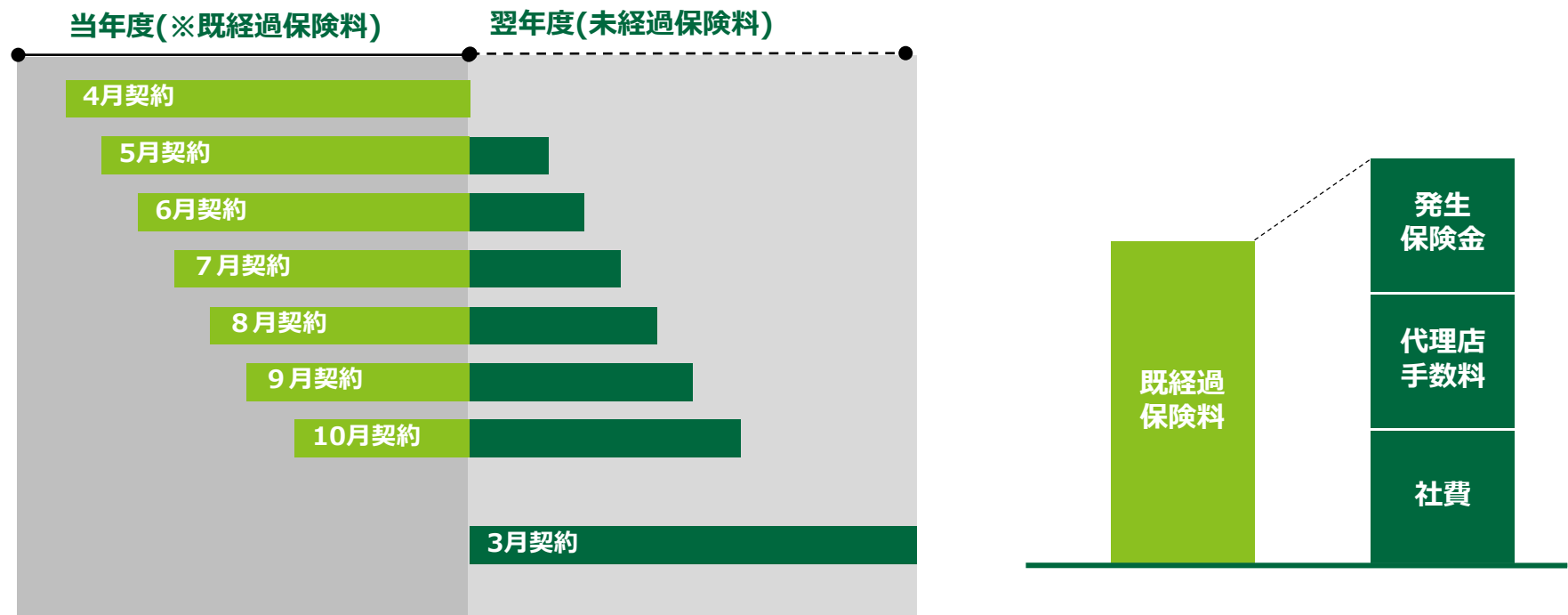
資産運用(不動産運用を含む)による下支え

ビッグデータの構築と活用

# (参考) 保険会計が経常損益に与える影響

## 1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金（未経過保険料）として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



## 2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響 (日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が毎期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率（※）が50%を超えると取崩し（費用のマイナス）が行われます。（※）正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

## アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部（IR事務局）

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階  
URL : <https://www.anicom.co.jp/>

### 本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。

本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。